

展覧会情報

でいしょう 泥象 鈴木治の世界 — 「使う陶」から「観る陶」、そして「詠む陶」へ—

Suzuki Osamu: Image in Clay

2013年7月12(金) — 8月25日(日)

鈴木治(1926-2001)は、戦後の日本陶芸を代表する陶芸家の一人として知られています。千家十職の永楽工房で轆轤(ろくろ)職人をしていた鈴木宇源治(うげんじ)の三男として京都五条坂に生まれ、早くから父に轆轤の手ほどきを受けました。鈴木は、戦後、本格的に陶芸家を志し、1948年に八木一夫、山田光らとともに、陶芸による新しい造形表現を目指して前衛陶芸家集団「走泥社(そうでいしゃ)」を結成します。器としての用途を持たず、純粹に立体造形としての芸術性を求めた彼らの作品は、当時の人々に驚きをもって迎えられ、「オブジェ焼」と呼ばれました。「オブジェ」ではなく、あくまでも土と火による造形を追求し続けた鈴木が、作品名にしばしば用いた「泥像(でいぞう)」や「泥象(でいしょう)」という言葉は、彼の作陶にこめた理念や想い、あるいは陶芸そのものに対する自らの答えといえるでしょう。

主に赤い化粧土を施した焼締め(やきしめ)と、みずみずしい色合いの青白磁(せいはいくじ)の二つの技法によって制作された鈴木作品には、馬や鳥などの様々な動物や、風や雲など自然現象のイメージから生み出された穏やかな「かたち」が力強く鋭い造形感覚で表現されています。作品の形と題名、そして観る者の抱くイメージが互いに呼応する独自の豊饒な世界は、文学的要素も強めながら年々いっそう深まりをみせていきました。

没後初めての大規模な回顧展となる本展では、初期作品から晩年の未発表作品まで含む約150点で、作者が到った「〈使う陶〉から〈観る陶〉へ、〈観る陶〉から〈詠む陶〉へ」の足跡をたどります。



《馬》1978年(撮影:高島清俊)



《消えた雲》1982年

関連イベント

講演会:「鈴木治の陶芸」

中尾優衣(当館研究員)

日時:2013年7月27日(土)午後2時~3時30分

講演会:「鈴木治:陶の造形詩人」

太田垣實氏(美術評論家)

日時:2013年8月10日(土)午後2時~3時30分

会場:京都国立近代美術館1階講堂

定員:100名

※聴講無料、当日午前11時から受付にて整理券配布

泥象 鈴木治展 友の会特別解説会

日時:2013年8月16日(金)

午後6時~7時頃

集合場所:当館1階ロビー

集合時間:午後5時55分

募集人数:先着10名

解説者:中尾優衣(当館研究員)

申し込み先:京都国立近代美術館 事業係

電話:075-761-4115

(月曜から金曜まで午前10時~午後5時)

※お申込の際は、お名前・会員番号をお伝えください。

次回展覧会



映画をめぐる美術——マルセル・ブロータースから始める

Reading Cinema, Finding Words: Art after Marcel Broodthaers

2013年9月7(土) — 10月27日(日)

本展覧会では、ベルギー出身の芸術家マルセル・ブロータース(1924-1976)による映画に関するテキストやプロジェクトを参照軸とし、そこから引き出される5つのテーマ——「Still / Moving」「音声と字幕」「アーカイヴ」「参照・引用」「映画のある場」——に即して、国際的に活躍する美術家13名のフィルム、写真、ビデオ、インスタレーション等の作品により、映画をめぐる美術家の多様な実践を紹介します。

ジョルジュ・サドゥール著『映画の発明』を手にするマルセル・ブロータース(1971年、デュッセルドルフ)

Courtesy: Estate Marcel Broodthaers Photo: Joaquin Romero Frias

新館長就任のお知らせ

7 月 1 日付けで京都国立近代美術館長に柳原正樹が就任いたしました。

柳原正樹 (やなぎはら まさき)

専門分野：日本画および彫刻

履歴

昭和 53 年 4 月 富山県教育委員会文化課

昭和 55 年 12 月 富山県立近代美術館

平成 18 年 4 月 富山県水墨美術館副館長

平成 22 年 4 月 富山県水墨美術館館長

平成 25 年 4 月 富山県水墨美術館館長 (再任用)

主な展覧会

「杉山寧展」(昭和 62 年)

「前田常作展」(平成元年)

「高山辰雄展」(平成元年)

「平山郁夫展」(平成 5 年)

「加山又造展」(平成 7 年)

「東山魁夷展」(平成 10 年)

「毛利武士郎展」(平成 11 年)

「日展 100 年」(平成 20 年)

著書等

「二十世紀美術を見る」C.A.P 刊

「昭和の美術」毎日新聞社刊

北日本新聞夕刊「悠閑春秋」執筆

芝川コレクション展関連イベント

ワークショップ「私の蔵書印を作ろう」開催

6 月 23 日 (日) 午後 1 ~ 4 時

参加人数：11 名



ワークショップの様子



完成作の印影

芝川コレクション展の関連イベントとして、ワークショップを開催しました。当ワークショップでは蔵書印を作ると同時に、芝川照吉さんがどんなコレクターだったのかを知る目的で行いました。芝川さんの玄孫にあたる肥山陽子さんも一緒に進行に加わり、家族にとっての芝川コレクションについても話しながら、楽しい 3 時間を過ごしました。

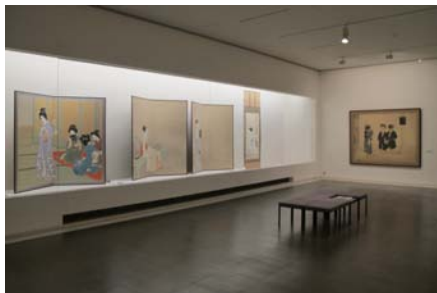
平成 25 年度 第 2 回 コレクション・ギャラリー展

7 月 10 日 (水) ~ 9 月 1 日 (日)

今年度第 2 回コレクション・ギャラリー展は下記のテーマで全 127 点を展示しています。

- ・〈彫刻〉の誕生
- ・開館 50 周年記念所蔵名品選—戦前京都画壇の官展作家達
- ・長谷川潔特集
- ・走泥社の陶芸をめぐって
- ・日本近代洋画の名品 II—日本的油彩画を求めて
- ・パンリアル美術協会
- ・シリーズ：検証「現代美術の動向展」第 4 回
- ・屋外彫刻

今回のコレクション・ギャラリー展では、開館 50 周年を記念して日本画 (上村松園《虹を見る》、竹内栖鳳《若き家鴨》、土田麦僊《罰》など) ならびに洋画の名品の数々を展示しております。工芸コーナーでは、開催中の企画展「泥像 鈴木治の世界」展の関連で、走泥社の作家たちによる作品を多数展示中です。今回は、「パンリアル美術協会」・「シリーズ：検証『現代美術の動向展』」と、二つの特集展示もご覧いただけます。



日本画コーナー会場風景
「開館 50 周年記念所蔵名品選—戦前京都画壇の官展作家達」



NFC 所蔵作品選集

MoMAK Films 2013

8 月：映画をめぐる映画

「映画をめぐる美術」展にちなみ、「映画をめぐる映画」を、映画産業斜陽期の作品群からピックアップ。1 日目は、独立プロを起こした今村昌平と大島渚の 2 作品を上映。2 日目は、70 年代から、先人にオマージュを捧げながら映画人の情熱と奮闘を描いた 2 作品を上映。

8 月 3 日 (土) 2 時 ~ 4 時 8 分

- ・『「エロ事師たち」より 人類学入門』1966 年
4 時 20 分 ~ 5 時 54 分

- ・『東京戦争戦後秘話』1970 年

8 月 4 日 (日) 2 時 ~ 3 時 13 分

- ・『黒薔薇昇天』1975 年
当プログラムは 18 歳未満はご入場いただけません。
3 時 30 分 ~ 5 時 32 分
- ・『ニッケルオデオン』1976 年 (アメリカ)

1 プログラム：500 円 (当日券のみ)

会場：当館一階講堂

チケットは会場入口にて販売、開演 30 分前より販売開始
各回入替制・定員 100 名

企画協力：川村健一郎・富田美香

(共に立命館大学映像学部准教授)

京都国立近代美術館賛助会員・一般会員

当館は下記、賛助会員の皆様からご支援・ご支持をいただいております。

